

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 185 号	2016年12月25日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	---

1. 活動報告（事務局 記）

—11月26日（土）親子自然観察隊は「里山の暮らし」でした。稲を千歯や足踏み式脱穀機で脱穀し、唐箕で風選して粃を採りました。稲わらを搓ってしめ縄を作りました。大豆の実は莢を木槌で叩いて採りました。大豆と椎の実を炒っておき、大豆は石臼で挽いてきな粉にして餅に塗して、椎の実はそのままで食べました。芋も残り火で焼き芋にして食べました。それぞれ美味しかったです。参加者は、親子自然観察隊は親13名と子11名、二俣瀬小学校の先生親子と生徒親子のそれぞれ1組、稲刈りに参加してくれた親子2組、会員12名でした。

—12月10日（土）収穫祭の準備で、テント張り、テーブル設置、テーブルへ紙張り、餅米の洗米、バーナーや餅つき機の動作の確認などをしました。参加者は、市民センター長、観察隊の親1名、会員16名でした。

—12月11日（日）最初に挨拶と説明があり、子供たちは帽子・マスク・手袋をつけて蒸して餅つき器でできた餅を丸めました。台唐による餅つきも大人により披露されました。めた餅はパックにして参加された親子や会員などに手渡せられました。その後で、親子自然観察隊の解散式も行われました。参加者は、親子自然観察隊（親14名、子15名）、二俣瀬子ども会（親18名、子20名）、厚東川中学校（生徒24名、先生1名）、稲刈りに来た家族（2名）、環境コミニティ1名、市関係者2名、会員28名（家族を含む）、総勢125名でした。天気も良くて楽しい行事を無事に終えました。

—12月11日（日）収穫祭の後で役員会議を行いました。

- ① 来年度の活動計画は、今年度の7月と9月に臨時作業を行いましたので、これを通常の活動に組み込みました。
- ② 餅つきは、セイロ・バーナー・餅つき器・餅丸めなどの作業ごとの担当責任者を決めて作業がスムーズに進行できるようにする。
- ③ 須賀河内川のヨシ刈りは、中電のボランティア活動と調整する。
- ④ 環境サロンで提案のあった、宇部工業高校のボランティア活動は、作業内容と時期などを提案高校の先生と話し合いを行う。
- ⑤ ため池と湿地帯の木製の橋の修復について、計画を立てて必要な材料は今年度の予算で購入する。

参加者は9名でした。

—12月24日（土）最初に作業として、水路の溝浚いと上げた砂の土嚢への詰め込み、田んぼの水はけのために溝浚いなどをして、懇親会に入りました。主に猪肉を主体に焼肉と豚汁とおにぎり、お酒を飲みながら、来年度の行事計画などを話し合いながら賑やかに談笑しました。参加は会員15名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません

◎行 事

—1月1日（日）正月休み

—1月21日（土）維持管理

3. 来訪者の声

今月はありません。

4. 会員の声-「環境サロンにて」（関根 事務局長 記）

11月23日に環境サロングループの訪問がありました。今回は単なる見学案内ではなく、実際に維持管理を体験していただくことで、我々の活動をよりよく理解していただくとともに、会員になりたくなるような印象を残せれば、といったことも意識しました。

午前中は宇部西高等学校、宇部工業高等学校の生徒さん8名を含む23名の環境サロン関係者および会員8名の参加を得て、ウチワゼニクサ、カヤツリグサ、ガマの除去、法面部の草刈り、仮積みした除去草の撤去を行いました。当初1時間弱の作業の予定でしたが、皆さんやる気満々、ほぼ2時間にわたって頑張ってください、ずいぶんきれいになりました。あらためて数の力を感じた次第です。

午後は、ワークショップ形式でビオトープに各自何ができるかを考えていただきました。「マイクロバス1台用意できれば、宇部工業のマイクロバスとあわせて60人ぐらいの工業の学生さんに来てもらえる可能性がある。」「企業のCSR活動と連携する場合、宇部では大企業より小企業の方が可能性ある。」「今回の若い参加者についてはこちらから積極的に働きかければ広報に協力してもらえる可能性がある。」「若者にはfacebookよりLINEかツイッターが良い。」などのほか、「誰を対象に売り込もうとしているのかわかりにくい」、「活動がマニアックすぎる」、など、ちょっと耳の痛いご意見を含め、今後の活動を考えるうえで有用な情報交換となったと思います。

この成果を今後に生かせればと思います。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。



湿地帯のエコアップ



宇部工業高・宇部西高の生徒・先生



ワークショップで議論



議論結果の発表

5. 親子自然観察隊

11月26日 「里山の暮らし」 (管哲郎記)

天気予報が良いほうに外れ、朝からとても良い天気となりましたが霜が降りて寒い朝となりました。ビオトープの会員も多数出席され、準備に追われましたがスムーズに準備も整い、予定通り千歯こき、足ふみ千歯こきを使った“脱穀体験“や”唐箕“によるモミや大豆の選別、”石臼“による大豆の粉作り、”しめ縄作り“それに”焙烙“を使って大豆、シイの実を炒ったり、米粉を練ってお団子を作り大豆の粉(きな粉)にまぶしおいしくいただきました。また、会員によりお芋の差し入れがあり、“焼き芋”もつくられみんな大喜びでした。

しめ縄づくりでは最初はみんな苦労しましたが、最後には立派なしめ縄が出来上がり、隊員たちも大喜びでした。原田隊員と吉富隊員により長さ2mほどのしめ縄がつくられて、しめ縄のつくられる様子がよくわかり、親子隊員ともども大変勉強になったようです。

そのほか、昔使用された生活用品が展示されました。

ふご：穀物や品物を入れて保存したり運搬するカゴ(稲わらでつくる)。

竹かご：田植えの苗を入れたり、刈り取ったワラやイネを入れて運ぶ。

篩(ふるい)＝「とうし」：選別の用具、 **むしろ(蓆)**：畳代わりの敷物。

裯纏(はんでん)＝はんぷく：体の暖房のための綿の入った上着。

今回のイベントは、思った以上に素晴らしくバラエティーに富んだ企画となり、準備を進めていただいた会員の皆様には感謝感謝です。準備が大変なものばかりでしたが、ベテランの会員により全く滞りなく終了いたしました。特に昔使われた用具の展示は、何でもありませんが大変重みのある出し物と感じ、今日のイベントを大いに盛り上げてくれたと思います。私たち“町に住む者”にはできない芸当です、ありがとうございました。



千歯こぎ



唐箕によるゴミの選別



大豆をサヤから取り外す



大豆を石臼で粉に挽く



しめ縄づくりに挑戦



「ふご」

親子自然観察隊の親子の感想

★金子 実侑

毎年恒例の、きな粉を石臼で挽く事が楽しかったです。石臼がとても重く、「昔の人ってこんなに大変なことをやっていたんだな・・・」と実感することができました。挽いた後のきな粉は、少し苦くあまり慣れない味でした。でも、挽き終わった時は達成感がありました。昔の人は、どんなことを思いながら挽いていたのかなー。とてもいい体験になりました。次回も楽しみです。

★金子 (母)

子どもの頃、祖父の家で使っていた見たことのある道具など、懐かしい物もありました。

昔の道具一つ一つに説明書きをしてくださっていて、わかりやすく、良かったと思います。
12月の収穫祭お餅つきも楽しみにしております。

★三隅悠人

大豆を石臼ですってきな粉にしたのがすごく楽しかったです！ぎごぎごって音がしたんだけど、全然重たくなって、ぐるぐる回すのが面白かった！手作りきな粉は甘くなかったから、味はちょっと…。でも本当の味がわかって良かったです！

★三隅（母）

自宅に持ち帰った大豆を、早速自分でいっていました。私がもう出来たの？早くない？と言ってしまったので、逆に炒めすぎてちょっと黒焦げに…。でも、諦めず、潰してすってきな粉にしていました。なんの手助けもせず、器具を選び一生懸命取り組んでいる姿に感動しました。貴重な経験をありがとうございました。

★月本直秀

しめ縄作りが楽しかったです。去年はわからなくて作れなかったけど、今年は上手に作れました。3個作ったので、お正月に飾ろうと思います。お団子もおいしかったので、お代わりしました。

★月本（母）

しめ縄作り、2度目だったこともあり、昨年よりしめ縄らしく作れました。今年は、脱穀の道具などに名前と用法の説明の紙が貼ってあり、子供にもとても分かりやすかったと思います。準備やお世話を下さる方々に頭が下がる思いです。大変お世話になりました。

★仲嶋（母）

足踏み千歯、脱穀、石臼など資料館などで見たことはあっても本当に使うのは初めてで貴重な体験となりました。昔の人は何から何まで手作業で大変だからこそ、食べ物がありがたさや、感謝の気持ちが強かったのだらうと感じ、現代の便利さで忘れていた、「いただきます。」の言葉の意味を思い出す機会ともなりました。しめ縄作りでは先生の器用な手に「すごい！」の一言。そして、口から水を霧吹きのように出す姿に元気だった頃の父の姿を思い出しました。あれ、簡単にみえて中々上手く吹くことができないんですね。来月も楽しみにしています。

★永富花音

『唐箕』を回すのはとても楽しかったけど、量を調整するのは難しかったです。

★阿部（母）

11月のピオトープは 初冬の冷たさでした。一面の霜に覆われた畑の辺りから 水蒸気がかもくと上がる様子は 何だか 温かいのかしら…？と 勘違いしそうな不思議な光景でした。煎りたて 擦りたてのきな粉の なんともいえない香ばしい香りがするお団子は格別の美味しさでした。

★阿部真愉

今日は稲の脱穀やきな粉を大豆から作ったりしました。私は途中から ずっと きな粉を石うすでひいていたので しめ縄は作りませんでした。石うすでひいたきな粉が最後に余っていたので貰って帰りました。稲の脱穀などは楽しかったし きな粉をひけたのはうれしかったです。

★下川航平

最初の脱穀で千歯が難しかったです。大豆をまき木で叩いて豆を取るのが楽しかったです。

しめ縄は去年より上手にできました。うれしかったです。

★木村（母）

指導して下さる方々が、丁寧に詳しく教えてくださったので、親子共々、昔の道具についてよくわかりました。そして、当日、皆さんで協力しながらお団子を用意して下さる姿を通じて、昔の日本の古きよき時代を見たような気がしました。昔は、あんな風に食べごとも、みんなで協力しながら過ごしたのだろうと思いをはせることができました。大豆の取り方も初めて知りました。観察隊で子どもと一緒に、私たち親もたくさんのことを学ばせて頂いており、毎回、感謝の気持ちでいっぱいです。

12月11日 「収穫祭・解隊式」 （管 哲郎 記）

収穫祭：二俣瀬公民館裏の広場にて多くの方の出席をいただき、今年も事故もなく150kgの餅米が順調につきあがりました。お餅を丸める作業も早く、3台の餅つき機でも追われ、あっという間に終わったように感じました。しかし、担当された方々はそれぞれの作業に追われ、大変だったようです、ご苦労様でした。

今年は食中毒が全国的に取りざたされ、収穫祭も手袋、マスク、ヘアキャップ着用が義務付けられ、担当者は大変な思いをいたしました。何とか無事に終了いたしました。これからは食べ物の準備にはこれらの用具が必要になりますが、会員の皆さんも、隊員のご父兄も全く意に介さない様子で頼もしく思いました。せっかくの楽しい行事がこのような制約により中止になることは「日本の伝統行事」をなくすことにつながるのではないのでしょうか、子供たちのためにも今後ともよろしく願いいたします。

解隊式：収穫祭が終了した後、引き続き“親子自然観察隊”の解隊式を行いました。ご家庭の事情でなかなか毎回参加できない隊員のいることは承知していますが、形だけでも、隊員の励みになればという思いもあり、“皆勤賞・優秀賞・努力賞”を特別に設け、6割以上参加された隊員にそれぞれ商品を送りました。もちろん参加の少なかった隊員にも全員に参加賞をお持ちいただき、来年の参加者を募ったのち終了いたしました。

さらに、ビオトープ7月の維持作業にわざわざ参加してくれた4家族には、ビオトープより“ご苦労賃”として「つき餅1パック」のプレゼントがありました、ありがとうございました、来年もビオトープの維持管理作業に1回でも参加してくれるご家族がいらっしゃれば、大変幸せです。



餅を丸めます



観察隊の解隊式

親子自然観察隊の親子の感想

★金子 実侑

今日の餅つきはとても楽しかったです。大人の仲間入りをして、パックにお餅を入れる作

業も、いい思い出になりました。お餅を丸めるのに比べると、地味な作業ですが、私なりにおもしろかったです。一年間ありがとうございました。

★金子揮壺

今年はあまり行けなませんでした。今日は久しぶりの活動が楽しかったです。

★阿部（母）

いつもよりは寒くない中での今年の餅つきは、大人数でアッと言う間に終了しました。安全面から 以前は体験出来た「だいがら」での餅つき、衛生面からの装備など 昔から行なわれきた体験活動が 厳しい状況の中で行わなければならない事に 少し寂しさを感じました。スムーズに行事が行われるように 事前の準備から終了まで 色々と有難うございました。一年間 四季の移り変わりや貴重な里山体験を親子で経験出来 ひとつずつ 楽しい大切な思い出が増えていくことを嬉しく思います。

★阿部真愉

久しぶりに餅つきをしたので楽しかったです。気温が低かったので寒かったのですが、お餅を丸めていると だんだん暖かくなりました。今年は初めて 丸めたお餅をケースに詰める作業を手伝いました。慣れてくると素早くできました。来年はビオトープに来るか分からないし、しばらく 餅つきが出来ないなあと思いました。とっても楽しかったです。

★月本直秀

ぼくが、自然観察隊で一番楽しかったのは、秋の昆虫です。見たこともない巣を作るくもがいたりして楽しかったです。また、来年も参加します。

★月本（母）

月に一度の自然観察隊、今年で二年目の参加でしたが、普段経験する事が出来ない貴重な体験を今年もありがとうございました。このように保護者の負担もほとんどなく、参加させて頂くことに感謝しています。準備やお手伝いして下さる方々のお蔭です。本当にありがとうございます。子供たちがここでの経験を生かして、将来何かの役に立てればと思っています。今年も大変お世話になりました。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(12) ヒメカマキリ *Acromantis japonica* Westwood

カマキリ目 ヒメカマキリ科

本州、四国、九州～沖縄までの範囲に生息し、日本の固有種です。林内の樹上におり小さいので、なかなか見つけられませんが、県内では山口市徳地、光市で確認しています。筆者も周南市の「黒岩峡」、豊田町の「華山」で確認しています。夏から秋（9月～11月）にかけて見られるようです。

日本に生息するカマキリ10種の内、ヒナカマキリ（♂12mm、♀15mm）に次いで小さく、♂25mm、♀35mmほどしかありません。コカマキリで45mm～55mmですから、ほんとかわいいカマキリといえます。

小さくても性質は肉食で、チョウやガ、小昆虫を鎌状の前足で捕えて食べてしまいます。生息地の確認場所が少ないので“情報不足”として処理されています、探してみてください、見つければ記録になりますので、ぜひご一報ください。



ヒメカマキリ♀ (華山)



ヒメカマキリのペア (華山)



ヒメカマキリ♂ (周南市 黒岩峡)

7. 会よりの連絡事項

1. 1月の最初の行事は正月休みではありません。次の21日が年初めの作業になり、多くの修復作業があります。寒い折ですが多くの会員の参加を願っております。皆様、良い年を迎えられ、元気な姿でお会いして、和気あいあいとまた作業が出来る事を期待して、年末の挨拶とします。今年の活動がスムーズに行えたことに事務局一同感謝いたします。

8. 編集後記

昨年同様、今年も暖かい日が多いように感じます。やはり、地球温暖化のせいでしょうか。昨年採択されたパリ協定（COP21）が発効しましたが、日本が批准したという情報は、私の耳には届いていません。おそらく、本気で環境問題に取り組む気持がないのでしょうか。なんだか心配です。我がビオトープでも心配事があります。貴重な動植物の減少です。特に今年は、ミズアオイとカヤネズミの減少が目立ちました。

準絶滅危惧種のミズアオイという植物は、数少ないため以前から注視していました。今年は二株しか見つからず、それも翌日には無くなっていました。誰かが抜いて行ったのでしょうか。ビオトープで唯一の哺乳類であるカヤネズミも、今年、少なくなりました。昨年の秋十個以上あった巣が、今年は三個しか見つかりませんでした。気がかりです。

エコアップをしていると、次の様なことが頭に浮かびます。エコアップをして逆に生態系を乱し、動植物の多様性を損なっているのではないかと。この結果、今まで見られていた在来種、特にミズアオイ、カヤネズミ等、希少種の減少を招いているのではないかと。しかし、これを防ぐ最適なエコアップは何かと問われると、答えが出てきません。今年は、迷っている間に湿地帯が草ぼうぼうとなってしまいました。

年末には、アカガエルが卵を産み始めます。怠けていたために、水面がカヤツリグサ等で覆われ、産卵場所が狭くなっています。アカガエルのためにも、これらを引き抜き来年に備えなければなりません。年の初めに湿地帯が卵で溢れているのを見ると、安堵するものです。来年はミズアオイ、カヤネズミも戻り、ビオトープが賑やかになりますように。

（ 前田 歳朗 記 ）